

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



# 埼玉ワイズメンズクラブ

## Saitama Y's Men's Club

今月の国際テーマ：Time of Fast (断食の月)

2023年  
2月



今年度クラブテーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」



### 第3回ワイズ東西日本区 交流会 @神戸



2月4日・5日と神戸でワイズ東西交流会に当クラブから浅羽、伊藤、上松、衣笠の4メンが参加。5年ぶりの再会。東西に分かれて25年。でも仲間は仲間。



白梅や  
ゆきかと思えば  
薫る枝  
正岡子規

#### <2月の聖句>

天地は消え去ります。しかしわたしのことばは決して消え去ることがありません。

(ルカによる福音書 21 章 33 節)

#### 2月「早春」例会のご案内

日時：2月27日(月)

午後2時～4時

会場：き咲きてらす(浦和区木崎3-6-6)

プログラム：「ジェンダー」を語り続けよう

\* 今月も参加者それぞれ今の社会で出会ったジェンダー体験をシェアし、3月例会でのワークショップ(鈴木洋一氏が指導)への下準備のつもりで自由闊達に意見交換しましょう。

\* 今月の歌は「早春賦」です!

\* コロナ感染症対策は万全に!



# MEMBERS' ESSAYS

## 「私は関田寛雄先生に特別に愛された」

上松寛茂



我が生涯の恩師関田寛雄青山学院大学名誉教授が昨年12月14日にお亡くなりになった。94歳だった。2023年に向けた年賀状には関田先生が超高齢にもかかわらずご活躍されている様子を記述した。今回は例年になく早い段階で年賀

状を作成、宛名も印刷済みだったため、投函すべきかどうか逡巡したもののそのまま投函した。

年賀状には、筆者が1964(昭和39)年に青山学院大学に入学した1年生の必修教養科目のキリスト教概論を受講した時に会って以来、77歳の喜寿を迎えた60年近いお付き合いの中で先生から100通超の手紙やはがきなどの私信をいただいたことを書いた。いつも細かい自筆のボールペンでびっしり。先生と私にしか通じない事柄が多く占めていた。最近では亡くなる数日前の12月8日に投函印のあるクリスマスを祝うメッセージのはがきで、結婚式の司式をしていただいた亡き妻とのことを思いやる温かい言葉が並んでいた。



1968年2-3月頃 卒業旅行(熱海梅園にて)  
関田先生(39歳)・上松氏(22歳)

先生は多数のご著書(計百冊超購入)を出版、大学での授業に加え、川崎で2つの教会を創立、開拓伝道、牧師の務めと同時に周辺の多摩川河川軸に住む在日の韓国・朝鮮人の人権問題に精力的に取り組むなど驚異的な役割を果たした偉大な伝道者だった。にもかかわらず、不肖の弟子だったからこそ、この私にも迷える一匹の子羊として目を掛けて下さったと確信している。私だけが特別待遇を受けたわけではない。私以上に数えきれない多くの人々に先生はイエス・キリストの愛の教えを伝えていたに違いない。そのエピソードを紹介したい。

新年早々、同じ関田門下の友人(出版社経営・Y'S世田谷クラブ会員)からメールが来た。彼の日本聖書神学校の先輩からの便りで、内容は次の通り。「実は、その関田先生が、天に還る2週間前の12月1日

付けで、ケンブリッジの私に、こちらでの研究テーマについての激励のお手紙を送って下さっていました。

クリスマス休暇もあったため、大学事務は閉まっておりましてので、関田先生からのそのお手紙を受け取ったのは、実は今日(2023年1月3日)なんです。そのため、さきほど今は天に還られた先生からのお手紙か・・・とあって、文面を読むと、もう泣けてきて涙が止まりませんでした。関田先生の魂が、今、主のもとで、平安でありますようにと祈りました。」

ホームレス支援全国ネットワーク代表で日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師の奥田知志さんがフェイスブックで、クリスチャン新聞2023年1月21日号で関田先生の追悼文を書いたことを知った。次のように記されていた。「関田先生に『特別に愛された』と僕は思っている。しかし、実は『そう思っている人』は全国に存在する。『私こそ愛弟子』と皆が思っている。良い教師というのは『先生は僕のことを特別に愛してくれた』と全員が思える存在なのだと思う。先生はそんな人だった」。

奥田牧師は、若き日にドイツ留学が決まり、関田先生に挨拶に行ったところ、「(ホームレスの支援活動の)風に吹かれなさい。奥田さん、風の吹くまま、気の向くままよ」と留学の断念を迫った。奥田さんはこの一言で留学を“ドタキャン”。日本のホームレス支援事業の第一人者となった。

日本伝道の衰退が叫ばれている。筆者は15歳の時に洗礼を受け、転勤の10年間を除き同じ教会に所属し、7人の牧師がやってきたが、年賀状以外にいただいた郵便による便りは1通もない。多忙さは理由にならない。イエスから呼ばれた宣教の務めを誠実に果たされた関田先生に出会えたことが人生の最大の収穫だ。昨年11月19日の先生を囲む読書会では「課題をもって生きろ」という最後の遺言をいただいた。❖



関田牧師と上松メン 東山荘本館献堂式にて  
2017年10月 本館を背に

# YMCA Vision 2030

(その3)

# YMCA の小窓から

\* 浦和 YMCA の活動を支えよう！

YMCA Vision 2030 のユニークな点は4つのテーマ（4本柱）がそれぞれ共通する3つの段階を組み込んだ戦略を世界中のYMCAが各地の事情に合わせて計画化していくことだ。

3つの段階とは即ち（1）まずYMCA内部で実践/実現する → （2）地域・若者が社会変革するように促す → （3）YMCAが地域・若者とともに広く政策提言（アドボカシー）していく。

3つ目の柱は「持続可能な地球」だ。

・ **第1局面**：YMCAを気候中立\*な団体にする  
YMCA自体が集団をあげて地球にやさしい「グリーン」な運動体であることを認められるように積極的に行動する。

・ **第2局面**：地域が環境への責任を認識するよう働きかける

YMCAの全ての活動に気候教育の要素を組み入れて、参加者が環境に優しい日常行動を実践し、地域の環境に対する責任を訴える。

・ **第3局面**：包括的な気候政策を提言する  
社会全体が環境に優しい経済活動(green economy)に移行する際、置き去りにされる人がいないように働きかける。

最後の4つ目の柱「公正な世界」は次号で。

\* 気候中立 (climate-neutral)：仕事や生活により排出する温室効果ガスの総排出量を算出し、実質的にゼロにするという環境保護への取り組み。

2023年2月4日に東松山市の武蔵逍遥乗馬会へ行き、乗馬とお世話体験を楽しみました。今回のプログラムは川越YMCA野外活動グループ「トースター」に在籍している8名の子どもたちが参加をしました。

午前中は大自然溢れる里山の中をグループにつき1頭の馬に順番に乗り探索しました。午後は馬のお世話として、ブラッシングとエサやり体験を行いました。

動物と関わって過ごすことはセラピーの効果があります。また動物に優しくすることで、自分や周りの人に対しても優しくできるようになってくれることをねらいとしてプログラムを行っています。

参加メンバーの中には初めての乗馬を体験するメンバーもあり、「高くて結構怖い、でも楽しい」と話していました。乗馬経験のあるメンバーは、「大地くん、よろしくね～」と馬の名前を呼びかけながら乗馬を楽しんでいました。

初めは馬の大きさに圧倒されていた子どもたちでしたが、帰る頃には慣れて馬を撫でることができました。寒空の中、子どもたちの笑顔溢れる活動となりました。

(長谷川 洋輔 ❖)



## Pillar 3

### Sustainable Planet Goals Summary

#### Make YMCAs climate-neutral

Actively work towards ensuring that collectively we become a Green, sustainable Movement.

#### Champion environmental responsibility

Integrate climate education components in all YMCA programmes and encourage our beneficiaries to practise and champion environmental responsibility.

#### Advocate for inclusive climate policies

Ensure that no one is left behind as we transition to a Green Economy.



## ◆ 東西日本区交流会に参加して

衣笠輝夫

期日：2023年2月4日～5日

会場：神戸市 ANA クラウンプラザ&神戸 YMCA



第3回東西日本区交流会はいろいろな面で画期的だった。日本の代表的な4奉仕団体（ライオンズクラブ、ロータリークラブ、キワニスクラブそしてワイズメンズクラブ）が一堂に会し、パネルディスカッション形式で各団体の現状や課題を共有した。会員数の減少や会員増強策は各団体共通の課題だった。そして地域での各団体のコラボレーションが提案された。特に子どもの支援を主とするキワニスクラブとYMCA・ワイズメンズクラブのコラボは対象が似ており大いに期待できる提案で検討に値する。



2日目は用意された3プログラム「ぶら神戸」、「SongFest」、「語ろうワイズの未来」から選択して参加するもので、私と浅羽メンは「Song Fest」に参加した。100周年記念歌集に入れられる歌3曲（鳥のように、君へ、いつもそばに）が歌われた。どれも印象に残る素晴らしい曲であった。2日目のハイライトはユース3チームによる「Y's x SDGs: Youth Action」で、新鮮な発想の活動が報告された。またDBC締結式・IBC経過報告がなされた。適切なクラブとDBCを積極的に進めることでクラブの活気が上がるのであれば、埼玉クラブもZoom活用も視野に入れ検討に値すると思われる。❖

## ◆ 1月「虎兎（こと）ぶき」例会

試しに28日（土）に開催したが、4人に終わった。でも川越クラブの卓話「英国留学よもやま話」にズームで参加「四つ葉牛乳」をも見事に飲み干し、結構面白かった。



## ◆ 2月「夜談会」

2月13日の「青蓮」での夜談会は元気な話し合いになった。ゲストは元東京山手YMCAキャンプリーダーで「ほっとプラス」の平田真基理事長。近いうちに卓話に招きたい人だ。終了後店長が写真撮ってくれたが店が目立ち過ぎかな。（浅羽 記）



## 📱 仲間からの お便り 📩

### ◆ 堀和光二郎メン 今月の俳句（俳号 愚道）

1. 薄氷（うすらい）をソロリと渡る迷い猫  
迷い猫は野良猫ですが、私自身の時もあります。
2. 昼火事のサイレンの音 道を開け  
乾燥しているせいか、火事が多いですね。
3. しっかりと冬のサボテンいきている  
寒いのに何故かサボテンはじっと生きていますね。

### ◆ 伊藤メン

2月4日（土）～5日（日）と第3回ワイズメンズ東西交流会に出席した。初めての試みとしてワイズのほか、ロータリー、ライオンズ、キワニスの4団体が一堂に会して経験や違いを共有する画期的な試みだった。5日（日）は神戸YMCAで早天礼拝のあと、グループ活動「ぶら神戸」に参加し「竹中大工道具館」を見学、竹中氏の私邸跡地が博物館として提供され、学芸員（元社員）の方から、法隆寺（607年）、薬師寺（680年）、唐招提寺（759年）の造営方法と道具類の説明を受けた。

### ◆ 水無瀬メン「聖句に思うこと」

私達が歴史の中で無くならないと思っていた事とが無くなるが多々有ります。最近ではメディアの中で良識の週刊誌と言われた週刊朝日が今年6月9日号を持って廃刊というニュースです。メディア環境の変化により1922年創刊の日本最古の週刊誌すら廃刊となるということです。読者の支持を得て1950年に100万部の発行を誇りましたが、近時は7万部と減り、消え去ることとなりました。一方、時代はどうあれ「主のみことばは決して消えさることが無い」を信じ歩めることは何と幸いなることかと思えます。

### ◇ お知らせ 夜談会の定例化へ向けて

毎月同じ曜日の方が都合良いということで試しに**第2月曜日午後6時頃**ということにした。来月は**3月13日（月）**です。とりあえず「青蓮」で。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
月例会 (1/28)	4	4	
夜談会 (2/13)	6	3	3